美白化粧水で尋常性白斑様の色素脱失を来したと思われる２例

皮膚科　塩見真理子、山田　琢
病理診断科　藤澤　正義

Key words ： 白斑、マグノリグナン、ロドデノール

【要約】

症例１：58歳、女性。11ヶ月前から美白化粧水を使用していた。２ヶ月前に化粧水使用部位（顔面～頚部、前腕）に脱色素斑があるのに気付き、当科受診した。症例２：61歳、女性。３年６ヶ月前から同銘柄の化粧水を使用していた。症例１同様、１ヶ月前に化粧水使用部位（顔面～頚部）に白斑があるのに気付き、当科受診した。

化粧水に含まれる美白剤ロドデノール®、マグノリグナン®にはメラニン生成抑制作用があることから、メラノサイト内でのメラニン生成低下により、尋常性白斑様の色素脱失を来した可能性があると考えた。

今後詳しい病態の解析が必要ではあるが、同銘柄の化粧水が女性を中心に全国的に広く使用されていること，また短期間に当科だけで２名の患者が集まったことを考慮すると，全国的には潜在的に多くの患者が存在することが危惧され，注意を要する。

Ⅰ．はじめに

主に女性にとって、肝斑、炎症後色素沈着などの顔面に生じた色素斑は大きな悩みのひとつであることから、顔面の色素斑を軽減し、肌を明るくすることは、スキンケア市場において大変重要な領域となっている。今回、美白化粧水で、色素脱失を来したと思われる２例を経験したので報告する。

Ⅱ．

症例　1

患者　58歳　女性

主訴　化粧品外用部の白斑

既往歴・家族歴　特記すべき事項なし

現病歴

2011年11月頃より、カネボウ　ブランシール　スペリア　ホワイトディープ クリアコンディショナーを使用していた。2012年８月頃～化粧品を外用していた顔面・頚部・両前腕部に白斑が出現したため、2012年９月に当科受診した。

初診時現症

化粧品を外用していた顔面、頚部、前腕部に、境界明瞭な脱色素斑を認めた。

臨床症状からは、尋常性白斑と考えた。

症例　2

患者　61歳　女性

主訴　化粧品外用部の白斑

既往歴・家族歴　特記すべき事項なし

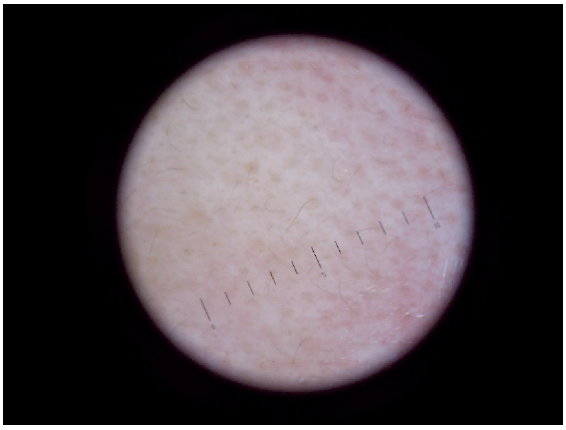
現病歴

2009年頃より、カネボウ　ブランシールスペリア　ホワイトディープ　クリアコンディショナーを使用していた。2012年８月頃より化粧品を外用していた顔面、頚部に白斑が出現したため当科受診した。

初診時現症

化粧品を外用していた顔面、頚部に、境界明瞭な脱色素斑を認めた。

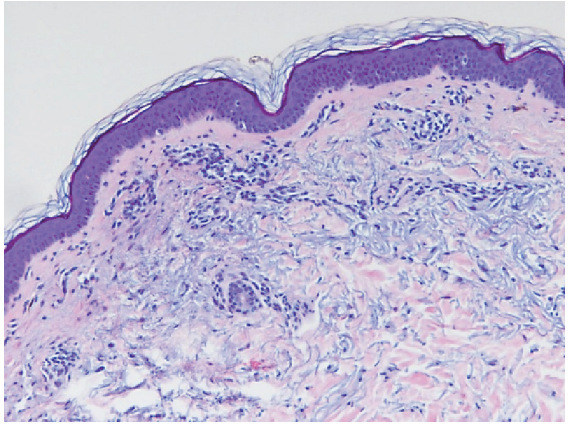
ダーモスコピーでは、白斑部の毛孔の周囲には色素脱失なく、体毛の白髪化も認めなかった。

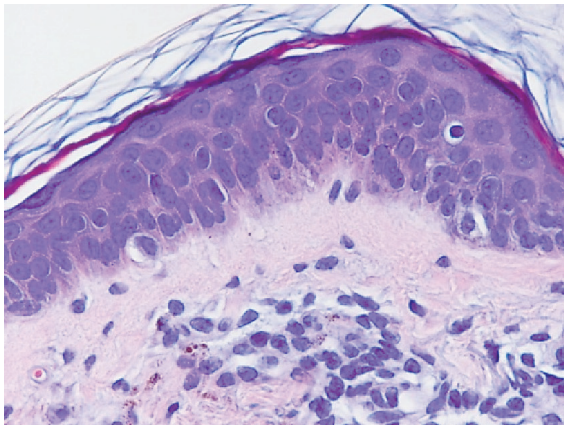


病理組織学的所見

頚部の白斑部より生検施行した。

弱拡大で、真皮表層には血管周囲に少数のリンパ球が浸潤していた。真皮にsolar elastosisを認めた。強拡大で、表皮基底層ではメラニン産生は減少しメラノサイトも少し減少しているものの相当数残存していた。真皮表層にはメラノファージが散在しており、組織学的色素失調の状態であった。





症例１に続き症例２でも，同じ銘柄の化粧品使用後に白斑様の症状が出現しており，化粧品による色素脱失を疑った。機序としては接触皮膚炎による炎症後の色素脱失、または美白剤でのメラニン生成低下による脱色素斑を考えた。鑑別診断として、尋常性白斑の初期である可能性は否定できないと考えた。

治療経過

２症例とも，化粧水の使用の中止を指示した。

症例１はその後受診しておらず経過は不明である。

症例２は、化粧品の使用中止後　３か月目の

外来受診時には、白斑部に正常皮膚色が再生していた。

使用中止前

使用中止後３か月目

２症例とも、化粧水使用後に色素脱失斑が出現し、症例２は中止により色素の回復が見られたことから、化粧品による色素脱失と診断した。

Ⅲ．考察

カネボウ　ブランシールスペリア　ホワイトディープ　クリアコンディショナーは、カネボウから1989年に発売が開始された美白化粧水である。2006年～マグノリグナン®、2011年～はマグノリグナン®に加えロドデノール®が配合されている。マグノリグナン®もロドデノール®もカネボウが独自に開発した美白有効成分である。

一般的に、色素沈着症はメラニンの生成と排泄のバランスが崩れたことによるといわれている。これに対処するために開発された美白剤の作用機序は大別して以下の３つがある。①メラニン生成経路におけるチロシナーゼを代表とする酵素群を制御することによるメラニン過剰生成の阻害、②周囲の細胞が放出するメラノサイト刺激物質を調節することによるメラニン過剰生成の抑制、③表皮細胞に受け渡されたメラニン排泄の促進、である。

マグノリグナン®、ロドデノール®はいずれも、チロシナーゼを阻害することでメラニン産生を抑制すると考えられている。[1-3] マグノリグナン®はメラニン合成経路においてチロシナーゼの成熟を阻害し分解を促進させてメラニン生成を抑制し、ロドデノール®はチロシナーゼと結合することで、活性を阻害し、メラニン生成を抑制する。

安全性に関して、カネボウの行ったマグノリグナン、ロドデノールの６ヶ月連用試験では色素脱失、皮膚刺激などの副作用は認めていない。[1-3] 自験例ではいずれも使用中に接触皮膚炎や皮膚刺激などの自覚症状はなく、10ヶ月以上の長期間の連用を経て脱色素斑を来した。

過去に、美白剤で色素脱失を来したという報告は少ない。種々の美白剤があるなかで最も強い漂白作用があるといわれるハイドロキノンでも、高濃度（６～８％）で比較的長期大量に用い、無防備な日光曝露歴を有するもので色素脱失をきたしたという報告は散見されるが、黒人においての報告が多く、日本人のスキンタイプでは起こりにくいものと考えられている。

今回の症例はいずれも、同じ銘柄の美白化粧水を使用し始めてから尋常性白斑様の比較的境界明瞭な色素脱失を発症し、その後症例２では化粧水中止により色素の回復を見たことから、今後、詳しい病態の解析が必要であるが、自験例は化粧水に含まれる成分により、尋常性白斑様の色素脱失を来した可能性があると考え報告した。

これまでに同様の症例の報告はないが、同銘柄の化粧水が女性を中心に全国的に広く使用されていること、また短期間に当科だけで２名の

患者が集まったことを考慮すると、全国的には潜在的に多くの患者が存在することが危惧され、注意を要する。

文献

1）佐々木　稔ほか：4－（4－ヒドロキシフェニル）－2－ブタノール：ロドデノールのメラニン生成抑制メカニズムとその美白効果. Fragrance Journal 39 : 37-40, 2011

2）武田克之ほか：マグノリグナン（5, 5'－ジプロピル-ビフェニル-2, 2'－ジオール）配合製剤の紫外線により生成される色素沈着に対する抑制効果. 西日本皮膚科　68：288-292, 2006

3）武田克之ほか：マグノリグナン（5, 5'－ジプロピル-ビフェニル2, 2'－ジオール）配合製剤の肝斑など色素沈着症に対する改善効果. 西日本皮膚科　68：293-298, 2006

本論文の要旨は第254回日本皮膚科学会岡山地方会にて発表した。